

1 本実践の背景と目的

画像生成AIの急速な進化によって、デザイン教育はかつてない変革期を迎えている。画像生成AIという革新的なツールは、デザインのアイデア出しにおいて、人間の創造性を強力にサポートする存在となり、その可能性は計り知れない。一方で使い次第では、著作権を侵害したり、考えることを停止させたり、良くないことも考えられる。だからこそ、生徒たちがAIを正しく使いこなし、共創すること促し、未来のデザイン業界をリードできる人材を育成していく必要がある。画像生成AIのスキルの習得は、これからデザイナーとして社会で活躍する生徒たちにとって必要不可欠であり、その基礎を養うことを目的とする。

2 授業の取り組み内容

画像生成AIを用いたコンテストへ挑戦

2025年度 愛知産業大学造形学部スマートデザイン学科主催の第7回高校生次世代アイデアコンテストへの応募を視野に、廣瀬先生に出張にてご講義いただいた（図1、図2）。



図1. プロンプト文作り

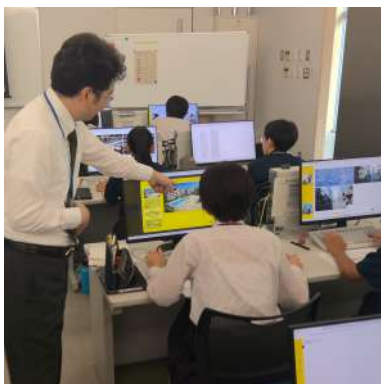


図2. 講義中の風景

画像生成AIのプロセスや、著作権（肖像権）、発信する時の注意点、プロンプトの作り方やコツについて、具体的にご指導いただいた（画像生成AIにはWhiskを使用。図3、図4、図5）。



図3. 画像生成の様子

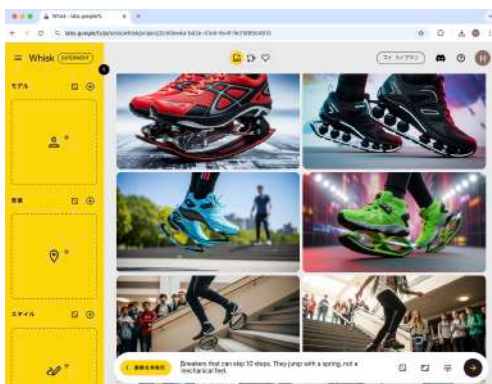


図4. Whisk の画面



図5. Whisk で生成した画像

3 現状・成果と課題

1. 現状・成果：画像生成AIを使ってアイデア出しに挑戦
デザイン活動を行う際のアイデア出し時に、画像生成AIを新たな道具として活用してみることができた。

- ・アイデアの具現化のスピードアップ
- ・発想の拡張と固定概念の打破
- ・コミュニケーションの円滑化

2. 課題：思い通りにならないことも…

AIで画像を生成するだけでなく、さらにAdobe Photoshopのような画像編集ソフトウェアで生成した画像を加工することにより、アイデアを自由に展開させたり深化させたりさせていきたい（図6）。

- ・思い通りを実現
- ・制作時間の短縮と効率化
- ・デジタルスキルとクリエイティビティの融合



図6. 液晶タブレットで画像編集する様子

4 まとめと今後の展開

今回、廣瀬先生に出張講義していただいた内容を参考にさせていただき、今後も画像生成AIによるアイデア出しを授業に取り入れていきたい。

今後の展開

1. 画像生成AIによるアイデア出しを継続

2学期以降の授業の中で、アイデア出しをする際に画像生成AIを道具として積極的に活用していくことで、アイデアを広げ、また、アイデア出しにかかる時間を短縮し、より効率的なデザインワークを身につけるよう指導していく。

2. 液晶タブレットの導入を検討

AIによって生成した画像をさらに自分のイメージに沿って加工することで、自分のアイデアをより具現化する力を育む。画像加工には、液晶タブレットを用いインタラクティブに制作ができるように進めていきたい。そのために液晶タブレットの導入を検討していきたい。

3. AIによる採点システムの開発

観点別での評価や多様化する生徒を公平に且つ正確に評価していくためには、膨大な時間がかかる（図7）。また、デザインや美術教育においては、綿密な教材研究や美術系大学進学に向けた実技指導など、時間のかかる業務がとても多く感じる。加えて、働き改革に伴う在校時間の制限もある中で、AIによる採点システムがあったら良いのではないだろうか。また、製図の授業でも活用できるのではないかと考えている。



図7. 作品評価の様子